

## 協議・調整事項（1）

児童・生徒の学力について

平成 30 年度

全国学力・学習状況調査結果

1. 平成30年度 全国学力・学習状況調査から 〈小学6年生〉

# 伸ばそう！高田っ子の学力と豊かな心

豊後高田市教育委員会 平成30年9月

この調査は、全国の子どもたち（小・中学校児童生徒）の学力や学習状況を把握・分析し、これまでの教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証サイクルを確立するためのものです。また、学校における子どもたちへの教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる基礎データとするものです。

その調査の概要と結果、そして今後の方策をお知らせします。



論理的な説明

- ◆調査の概要 ◆調査期日 平成30年4月17日(火) ◆調査対象 小学校6年生
- ◆調査内容 (1) 教科に関する調査 小学校6学年 国語、算数、理科  
(2) 問題内容 主として「知識」に関する問題及び主として「活用」に関する問題
- ◆質問紙調査 学習意欲、学習方法、学習環境、児童の諸側面等に関する調査

## 豊後高田の子どもたちのすばらしいところ と 伸ばしたいところ (質問紙調査結果より)

豊後高田市の子どもたちは、質問紙調査において、次の項目で肯定的な回答をした割合が全国より高くなっています。(肯定率とは、「とてもそう思う」と「まあまあ思う」をたし合わせた数です)

- 自分にはよいところがあると思う。(市 86.5%、全国 84%)
  - 先生は、よいところを認めてくれている。(市 90.8%、全国 85.3%)
  - 将来の夢や目標を持っている。(市 90.2%、全国 85.1%)
  - 5年生までに受けた授業で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする授業があった。(市 89.5%、全国 74.4%)
  - 地域や社会をよくするために、何をすべきか考える。(市 66.3%、全国 49.9%)
- 一方、以下の項目で肯定的な回答をした割合が全国を下回っています。
- △ 朝食を毎日食べている。(市 91.4%、全国 94.5%)
  - △ 一日あたりの読書時間 30分以上 (市 30.7%、全国 41.1%)



問題解決的な学習

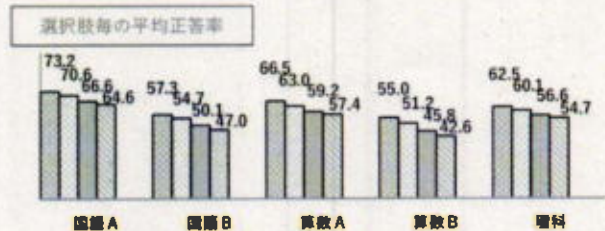
## 学力や「豊かな心」を育むもの

自己認識、社会性、生活・学習習慣、好きな教科等は、学力や豊かな心の育成にも大きく関係があります。いいところを伸ばし、気になるところは改善し健やかに育みたいと考えています。

### 【児童生徒質問紙】自分には、よいところがあると思いますか。

- 全国調査では「自分には、よいところがあると思いますか」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、平成25年度以降、増加傾向が見られ、平成30年度は約8割になっています。豊後高田市の子どもたちは、さらに高い肯定率があります。(市 86.5%、全国 84%)
- この「自分にはよいところがあると思う」という気持ちは「自己肯定感」であり「自尊心」に関わるものです。この項目で肯定率の高い子は右下のグラフのように、教科の学力も高い傾向にあります。

回答割合	とてもそう思う	まあまあ思う	どちらでもない	まあまあ思わない	とても思わない
30年度	41.2	42.8	11.6	1.3	
29年度	38.6	39.3	14.9	7.0	
28年度	36.3	40.1	16.1	7.4	
27年度	36.3	40.0	16.1	7.5	
26年度	35.1	41.1	16.7	7.0	
25年度	34.6	41.2	16.8	7.3	



子どもを健やかに育むためには、子どもの自己肯定感や自尊感情、そして社会性を育むことが大切です。その上で、自分の夢を描き(目的を持ち)、夢に向かって勉強したり、練習したりする(努力することによって自己実現が図られます(夢がかなえられる)。

また努力するにしても、国語、数学といった教科学力、教室内で遠慮なく発言する力、伸びようとする向上心は必要であり、確実に身につけさせなければなりません。

全ての教科で、県・全国の正答率を超えており、課題になっていた活用する力の伸びが伺える。これは、各校で基礎的な知識・技能の定着を図ったことや、子どもが課題に対して、思考・判断し、説明したり考えをまとめたりする問題解決型の授業に取り組んでいることの成果と考えられる。

	国語A	国語B
豊後高田市	75	61
大分県(公立)	72	56
全国(公立)	71	55

類型Ⅰ 国・県の正答率を下回った設問【市30.7%、県36.3%、国35.5%】

A5 《出題の趣旨》文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く。

5 大山さんは、春休みの出来事について文章を書いたあと、矢野さんは、読み返して……部と——部とのつながりがない文があることに気づきました。文を読んであとの問いに答えましょう。

【春休みの出来事の一部】

①ほくば、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は見事に実りました。②ほくたちのチームは、地区大会で優勝したのです。③今年の春休みはとてもじゆう実したのになりました。でも、反省していることもあります。④反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけでなく、用具の手入れもしっかりがんばりたいと思います。

（問い）……部と——部とのつながりがない文の番号を選び、……部はそのままにして、文の意味が変わらないように、選んだ文を正しく書き直しましょう。

選んだ文の番号 ④

書き直した一文 反省点は、用具の手入れをあまりしなかったことです。

【授業改善のポイント】文の中の主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くことに課題があります。主語と述語との関係を理解させ、書いた文章を読み返す習慣を付けるように指導する必要があります。

類型Ⅲ 特に県・国と比べて正答率の高かった設問【市:72.4%,県:57.8%,国:52.3%】

B3 伝記を読み、自分の考えをまとめる。(国語への関心・意欲・態度、読む能力、書く能力)

全国を20.1ポイント上回る正答率でした。授業の中で、自分の考えを、根拠を示して一定量の文章にまとめる活動を全ての教科で意識的に行っていることが一つの要因と考えられる。

【伝記「湯川秀樹」の一部】

秀樹は、大学を卒業した後も引き続き大学に残って研究を続けたが、なかなか成果を出すことができなかった。そのころ世界では、秀樹が取り組んでいる研究の分野で新発見が相次いでいた。研究の見通しがかず、秀樹にとっては苦しい日々が続いていた。

昼夜を問わず、秀樹の頭の中には研究のことがあった。ふとんに入ってからも研究のことを考え、次々にうかんでくるアイデアをわすれないために、まくらもとはノートを置くようにしていた。そして、アイデアを思いつくことに電灯をつけてノートに書きこむようにし、ねばり強く考え続けていた。秀樹は、だれも知らない真実を探ろうとしていたのである。

【問題の概略】

山下さんは湯川秀樹の伝記を読んで、「自分の力で、やれるところまでやってみよう」という一文に最も心がひかれたそうです。そのことについて、次の条件に合わせて書きましょう。(自分の力でやれるところまでやっている部分を抜き出してまとめる)

①なぜこの一文に心をひかれたのかを、考えて書くこと。

②「伝記「湯川秀樹」の一部」から言葉や文を取り上げて書くこと。

③六十文字以上、百字以内にまとめて書くこと。



【例】湯川秀樹は大学を卒業した後も、昼夜を問わず研究のことを考え、ふとんに入ってからも次々にうかんでくるアイデアをわすれないために、まくらもとはノートを置くようにしていた。(上の文にぼう線を引くとよい)

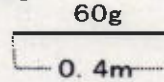
【指導のポイント】文章を読む「読み方」を身に付けさせることが大切です。例えば接続詞の役割から段落同士の関係をとらえる学習、文章の構成図を考える学習、「序論・本論・結論」「起承転結」といった文の組み立てに着目する学習などを積み重ねる指導をしていきたい。

算数の平均正答率は、A問題・B問題とも定着率が高い。しかしながら、小数のわり算を使った問題やグラフの多様な読み取りの問題、記述式の問題に課題が残っています。

	算数A	算数B
豊後高田市	67	54
大分県(公立)	65	52
全国(公立)	64	52

類型Ⅰ 大分県の正答率を下回った設問【市51.5%,県60.5%,国62.9%】

**A1** 0.4mの重さが60gの針金があります。  
この針金について、次の問題に答えましょう。



(3) 針金1mの重さを求める式を、下の1から4までの中から1つ選びましょう。

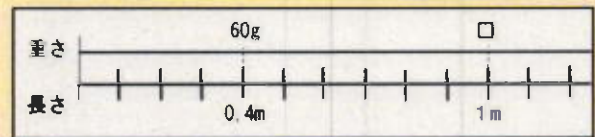
- 1  $60+0.6$       2  $60 \times 0.4$       ③  $60 \div 0.4$       4  $0.4 \div 0.6$

《ポイント》線図を作成したり、分かりやすい数字に置き換えたりして、考えるとよい。例えば、長さが0.4mではなくて、2mであれば、1mの重さは、 $60 \div 2$ (重さ÷長さ)と計算式を立てることができる。

そこで、重さ÷長さにあてはめて、 $60 \div 0.4$ と立式するとよい。

正解は 3

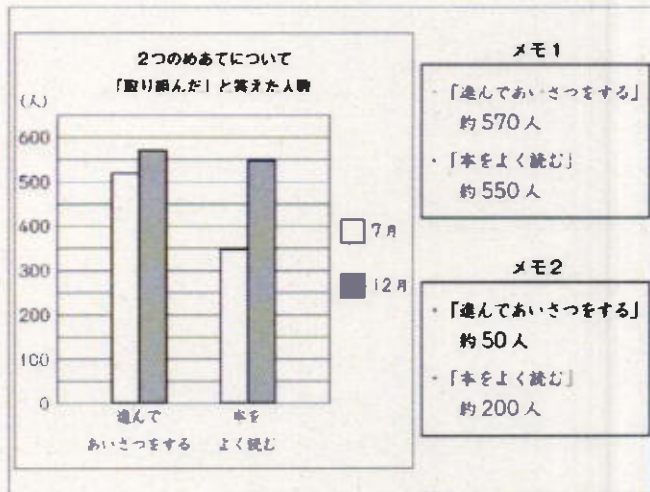
※ このような問題は、5年生でも出題されています。  
除数を分数にしたり、小数になる問題が出題されますが、児童は計算しやすいように、立式することが多いので、分数や小数に惑わされず、被除数と除数を適切に捉え、自信を持たせるように指導したいものです。



類型Ⅱ 正答率の最も低い設問。【市:21.5%,県20.3%,国:20.7%】

**B3** しおりさんたちの学校は、「進んであいさつをする」と「本をよく読む」の2つのめあてに取り組んでいます。  
しおりさんたちは、7月と12月に、2つのめあてについて全校児童625人に対してアンケート調査をし、その結果を下のグラフに表しました。  
しおりさんは、グラフからわかることを2つのメモに書きました。

メリカさんとまさるさんは、しおりさんが書いたメモについて話合っています。



メモ1を見ると「進んであいさつをする」のほうが人数が多いです。でも、メモ2を見ると「本をよく読む」のほうが人数が多いですね。



メモ1では、「進んであいさつをする」のほうが人数が多く、メモ2では、「本をよく読む」のほうが人数が多いのは、なぜですか。



メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてちがうことに着目して書いているからです。

(1) メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれていますか。それぞれ着目していることを、言葉や数を使って書きなさい。

正答例) メモ1は、12月の人数に着目して書かれています。メモ2は、7月の人数と12月の人数の差に着目して書かれています。

《ポイント》グラフの特徴を複数の観点で捉えて、情報を読み取ることができるようにするために、他者が読み取った情報や観点をグラフと関連付けて解釈できるようにすることが大切です。

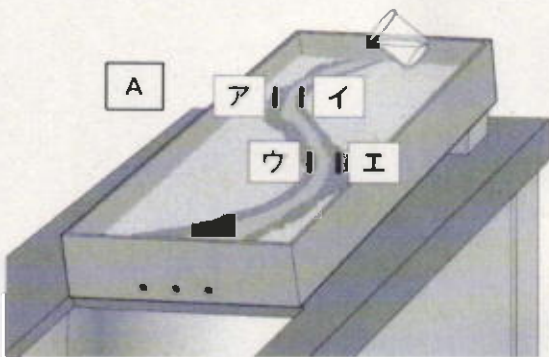
【指導のポイント】指導にあたっては、「12月に進んであいさつをした人は約570人」や「進んであいさつをした人は7月から12月で約50人増えた」などの読み取った情報を、総数や変化といった観点で分類し、それぞれの情報について意見を出し合う活動が考えられる。様々な視点や観点から読み取るように指導したい。

理科の平均正答率は、全国平均を越えており定着率は高いものの、大分県と同様に、問題番号2設問(3)の、「より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できるかどうか」を問うことに課題がある。

	理科
豊後高田市	63
大分県(公立)	63
全国(公立)	60

類型Ⅲ 正答率の最も低い設問【市:14.1%, 県:19.9%, 国:20.1%】

問題番号2 川を流れる水の速さと地面のけずられ方について、予想を立て、そして実験を通して結論を導く問題です。実験方法は、Aのような装置を使い、曲がっているところの内側と外側に棒を立てて、一度に流れる水の量を変えて、調べます。3回実験をしたところ、2回目だけイとウに立てた棒が倒れました。



実験結果

ポイント	1回目	2回目	3回目
ア	たおれた	たおれた	たおれた
イ	たおれない	たおれた	たおれない
ウ	たおれない	たおれた	たおれない
エ	たおれた	たおれた	たおれた

2回目だけイとウに立てた棒が倒れたことに疑問をもったかつやさんとよしさんは、2回目だけ水の流し方が違ったのではないかと考えました。



2回目は、ピーカーから一度に流した水の量が多かったかもしれないな。



実際に大雨が降って川を流れる水の量が増えると、流れる水が地面をけずる様子も変わるのではないかな。

そこで、水の量を変えてAのような実験をしたところ、Bのような結果になりました。

水の量を変えた実験

○地面のけずられ方についてくわしく調べるために、みぞの曲がっているところの外側と内側に3本ずつ棒を立てる。

○1本のペットボトルの水を流したときと、2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒のようすを調べる。

A

実験結果

1本のペットボトルの水を流したときの棒のようす	B	2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒のようす

上の実験の結果から、川を流れる水の量が増えると、川の曲がっているところの外側と内側の地面のけずられ方は、どのようになると考えられますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号にしたわけを実験結果の「水の量」と「棒の様子」が分かるようにしてかきましょう。

- ① 外側も内側もけずられる。
- 2 外側も内側もけずられない。
- 3 外側だけがけずられる。
- 4 内側だけがけずられる。

正答例 【番号】 1

【わけ】 2本のペットボトルの水を同時に流して、水の量を増やすと、みぞの曲がっているところの外側も内側の両方とも棒が倒れたから。

- ① 1度に流す水の量をふやしたこと。
  - ② みぞの曲がっているところの外側と内側の両方の棒が倒れたこと。
- この①と②の全てを記述していなければならない。

【指導のポイント】 指導にあたっては、例えば実験を構想する際には、どのような予想を確かめたい実験なのかを明確にし、実験方法の妥当性や得られる結果の見通しなどを児童同士で検討する場面を設定したり、その内容を発表したりするなどの学習活動が考えられる。また、自分の考えと異なる他者の予想に対しても結果の見通しを持つことができるようにし、内容を共有することにより、より妥当な実験方法について話し合うことができるようにしていくことが大切です。